

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標
(開発創造) 社会に関心を持ち、自分で創意工夫できる
(和衷敬愛) おだやかで思いやりをもって人に接することができる
(質実剛健) 心身ともに充実して飾り気がなく、強くたくましく日々を過ごすことができる
その精神のもと、自分の頭で考えることができる、自分を律することができる、自分の言葉や行動で表現することができる、信頼される生徒を育てていく

2 中期的目標

1 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校
(1) 日々の授業が、「わかりたい」「できるようになりたい」と思う生徒の思いに応え、そのことで教員への信頼を勝ちとる場であることから、「教科指導」が最大の「生徒指導」であるとの教員の意識改革とその自覚に裏打ちされた教育活動を展開する
ア 授業において「ほめる・笑う・叱る」を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る
イ 単元別テストや小テストなどを実施し、学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う
ウ 観点別評価の精度を高める
※授業アンケート「生徒理解」を3.30とする (R3 3.25 R4 3.27 R5 3.25)
※授業アンケート「生徒意識」を3.20とする (R3 3.14 R4 3.17 R5 3.19)
(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる
ア 教員相互授業見学の意識の共有化を図り、教員の授業改善の結果、生徒の授業満足度を向上させる
イ 学力向上委員会と情報委員会で連携し、リーディング GIGA ハイスクール事業機器を活用し、ICT 教育の更なる推進について検討していくとともに、グループ学習、発表（伝える）能力育成をめざす授業の推進を行っていく
ウ 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の縮減を図るため、全校一斉退庁とノークラブデーの徹底を図る
※学力向上委員会主導のもと、公開授業の増加を図る
※リーディング GIGA ハイスクール事業を推し進め、ICT を利用した授業、ペアワークやグループ学習の有効活用を図る
※ストレスチェック職場の健康リストの結果をもとに、教職員の心身の健康を維持させていく

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校
(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」を身につけさせ、良き社会人の育成に取り組む
ア 挨拶を通して、人間関係の構築のきっかけとさせ、また遅刻者数を減らす
イ 生徒会活動の活性化、部活動の充実化を図る
ウ 国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める
※遅刻者数の減少を図り、2000 以下を維持する (R3 1803 R4 1481 R5 1526)
※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定率を 85%とする (R3 81% R4 82% R5 81%)
※部活動加入率を 65%とする (R3 65% R4 58% R5 59%)
※ニュージーランドと台湾、韓国の姉妹校や大学への語学研修派遣及び相互交流を継続
※卒業生の日本語アシスタント派遣：ニュージーランドの姉妹校に卒業生を日本語アシスタントとして派遣を継続
※英語アシスタントの受入れ：ニュージーランドの姉妹校から卒業生を英語アシスタントとして受け入れを継続
※地域の国際関連施設と語学を通じた連携を継続
※生徒向け学校教育自己診断における国際交流関連の肯定率をコロナ前の 90%に戻す (R3 59% R4 64% R5 66%)
(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく
ア 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる
イ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む
ウ 進学講習を組織的に実施する
※外部指標のある教材や模擬試験なども活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく
※スタディマラソン・共通テストチャレンジなど独自の取組みを継続させ、大学進学希望者の現役合格率を 90%以上とする (R3 88% R4 88% R5 89%)
(3) 安全で安心な学校づくりを行う
ア 人権教育推進委員会、及び教育相談委員会の充実（いじめの未然防止と早期発見、ケース会議の適宜開催）
イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、探究や HR の充実を図る
ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進し支援の充実を図る。
エ 生徒にとって学校が安全で安心できる居場所となるために、専門家である SC や SSW 等外部人材の活用
※安全で安心な学校づくりを行うための教職員研修を継続
※要支援生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校
(1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける
ア 【学校を外に開く】ケーブルテレビにおけるテレビ学校説明会の在り方を検討し、まとめ役として取組みを継続していく
イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会において、生徒の出身中学校との連携を強化する
ウ 【学校を外に開く】住吉区との防災連絡会議を継続し、地域の防災活動と連携していく
エ 【学校を内に開く】学校説明会などで本校の良さを知ってもらう取組みを実施する
オ 【学校を内に開く】「ご来校（お電話）いただきありがとうございます」の姿勢を維持する
※学校ホームページを使った情報発信やメールマガジンの発行を継続し、個人情報に留意し、動画配信なども検討する
※学校説明会で生徒が活躍する場面の充実
※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定率 90%とする (R3 88% R4 88% R5 87%)

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
＜生徒回答＞ （肯定率が高く、昨年度より肯定率がUPした項目） ・1人1台端末を活用している 肯定的評価 94.1% (R5 79.2%) ・学校のホームページ、メルマガ、学習支援クラウドサービスなどからいろいろ情報提供がある 肯定的評価 90.7% (R5 81.6%) ・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある 肯定的評価 88.6% (R5 78.6%) ・将来の進路や生き方を考える機会がある 肯定的評価 88.8% (R5 80.6%) （肯定率が低い項目） ・学校生活についての先生の指導には納得できる 肯定的評価 64.1% (R5 61.0%) 取組みに対する評価は、全般的に高評価で昨年度よりも高まっており、特に ICT 活用や情報提供の向上が顕著である。情報提供向上については、今年度9月より学校ブログをはじめたことが大きいと推察できる。一方で、「先生の指導」に対する満足度は改善が進んでいるものの、他の項目に比べて評価が低い。生徒や保護者と対話をしっかりと重ね信頼関係を築くことで納得感のある生徒指導につなげていきたい。 ＜保護者回答＞ （肯定率が高い項目） ・阪南高校に入学させてよかった 肯定的評価 90.4% (R5 86.7%) ・子どもは学校へ行くのを楽しみにしている 肯定的評価 84.6% (R5 85.2%) （肯定率が低い項目） ・学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がついている 肯定的評価 55.1% (R5 60.6%) ・学校に気軽に相談できる先生がいる 肯定的評価 56.4% (R5 54.5%) 「入学させてよかった」「学校を楽しみにしている」の項目はポジティブな評価を維持しており、学校全体の満足度が高いといえるが、学力向上や相談体制に関しては保護者の評価は低い。学校の様々な取組みについて保護者へ発信するとともに、生徒が安心して学校生活を送り進路実現できるように支援していきたい。 ＜教職員回答＞ （肯定率が高い項目） ・生徒の人権を尊重し、日々の教育活動を行っている 肯定的評価 91.7% (R5 97.2%) ・学校行事は、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で工夫・改善に取り組んでいる 肯定的評価 91.7% (R5 83.3%) ・教育相談体制が整備されており、生徒は担任以外の教員とも相談することができる 肯定的評価 89.6% (R5 94.4%) ・いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている 肯定的評価 85.4% (R5 77.8%) （肯定率が低い項目） ・新しい教育課程は、生徒に必要な学力をつけ、時間的にも十分なものである 肯定的評価 50.0% (R5 36.1%) ・職員会議等の会議が、円滑で有効に機能している 肯定的評価 66.7% (R5 63.9%) 「人権尊重」「いじめ対応体制」「生徒主体の学校行事」の3つの項目で高評価。教職員が生徒の主体性や安全確保に配慮した教育活動を意識しているといえる。一方で、生徒が必要な学力を得られるように、同時に教職員がそれを実感できるように、学習指導の工夫が求められる。また、会議の目的を明確化し時間効率を高めるなど議題を絞り結論を迅速に得られる会議の運営が必要と思われる。それが働きかた改革につながればなお良い。	【第1回 令和6年6月20日実施】 ・生徒が落ち着き学習に取り組んでいる。生徒への声かけなど寄り添いも含め継続願いたい。 ・交通安全指導については、自転車のヘルメット着用を含めた指導をお願いする。 ・中学校から高校にかけてクラブ活動を継続したい生徒も多いと思う。中学生への広報において、部活動ブログの更新頻度を上げるなど、広報に努めてもらいたい。 ・探究的な学び、アクティブラーニングなどを取り入れ、学習の質の向上を引き続きお願いする。 ・1人1台端末な ICT の活用も進んでいる。効果的な活用と場面設定が必要。 ・阪南は大阪における国際交流の先駆者である。その自負を持ち、魅力ある活動を継続願いたい。 【第2回 令和6年9月7日実施】 ・働き方改革や教員間での仕事量の平準化を行い、学校全体として良くなる方向にベクトルを合わせてほしい。 ・国際交流について、活発に取り組んでいることがよくわかる。 ・教職ボランティアに学習支援を行ってもらう取組みは大変よいこと。可能ならば今後も受け入れを行うことでよい刺激になるのではないか。 ＜校内見学(文化祭)を見学して＞ ・良い催し物がたくさんあり、素晴らしかった。 ・大変活気があった。生徒がよくあいさつしてくれ、とてもよかった。 ・生徒が主体的に取り組んでいる姿をみることができた。 ・海外の方(近隣の研修センターからの来客)も来校されていた。日本の教育にいい印象をもってもらうことでさらに国際交流が活性化すると思う。 ・生徒たちのもてなしや、手作り感満載の模擬店などをとおし、とても温かさを感じた。 【第3回 令和7年2月21日実施】 ・自己診断の保護者評価「阪南高校に入学させてよかった」が 90.4%と高い値を維持している。なぜそう評価してもらえているか、を具体的に把握することも必要ではないか。 ・自己診断の保護者評価「学校に気軽に相談できる先生がいる」が 56.4%と前年よりは上昇するも比較的低い値となっている。保護者がこどもから学校のことを聞く機会が減っていることが一因ではないか。引き続き教員には、気軽に相談していいよという姿勢を保っていただければと思う。教職員の相談体制の強化については肯定率が上昇しているので、校内体制は改善していると思う。今後さらに個別の相談体制の充実や、情報発信をとおして、保護者・生徒に対しアピールいただきたい。 ・自己診断の教職員評価「いじめ対応」は 85.4%と高い値である。いじめに対しての学校の取組み姿勢が表れている。いじめゼロであることは理想だが、「いじめ見逃しゼロ」を掲げ、教職員で取り組んでいることがよく伝わった。教育相談と生徒指導の両輪で、引き続き生徒の指導・支援をお願いする。 ・自己診断の教職員評価「授業改善」の数値も大きく向上。授業アンケートも高い。また授業見学をしたが、生徒はしっかり取り組んでいた。自然発生的に質問・教えあいなど、生徒の学習に対する意欲もみとることができた。教員との関係も良好。勉強するぞ、という気持ちが育まれていることが感じられる。引き続き、さらなる授業改善に取り組んでいただきたい。 ・教員の月平均残業時間(12月末時点)で、25.1H(昨年度 24.9H)と横ばい。部活動が熱心な先生も多く、なかなか縮減に至っていないのではないか。縮減の取組みを行っていただいていること、また部活動などに頑張っていただいている先生にも感謝する。一方で、活動の充実と時間の削減は相反する部分もあるだろう。分担を工夫するなど、引き続きの取組みをお願いする。 ・保護者の立場から見ると、家庭での学習は、長期休みの課題をのぞき、正直ほとんどおこなっていないように感じる。しっかりとした学力をつけていくために、さまざまなてだてで、授業以外でも学習するよう取組みを進めてもらいたい。組織的な取組みをお願いする。

府立阪南高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 教員相互に高めあう学校	(1) 日々の授業が、「わかりたい」「できるようになりたい」と思う生徒の思いに応え、そのことで教員への信頼を勝ちとる場であることから、「教科指導」が最大の「生徒指導」であるとの教員の意識改革とその自覚に裏打ちされた教育活動を展開する (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力 UP につなげる	(1) ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究する (2) ・「褒めあげシート」を活用し、教員相互の授業見学を実施し、教員一人ひとりが授業力向上に取り組む ・授業力向上プロジェクトと情報委員会で連携し、リーディング GIGA ハイスクール事業で設置された機材等の活用を促進する ・教員の健康管理・働き方改革の観点から、部活動方針を遵守するとともに、時間外在校等時間の多い教員に個別指導を行う	(1) ・授業アンケート 「生徒理解」前年度以上[3.25] ・授業アンケート 「生徒意識」前年度以上[3.19] ・ICTの活用をはじめ、リーディング GIGA ハイスクール事業に関する教職員研修を学期に1回以上実施 (2) ・教職員向け学校教育自己診断 「授業関連」の肯定率 前年度以上 [78%] ・教職員向け学校教育自己診断「リーディング GIGA ハイスクール」関連の肯定率 72% ・ストレスチェック職場の健康リスク3尺度の平均値100以下を維持[93] ・教員の月平均残業時間を前年度以下[24.6H]	(1) ・授業アンケート 「生徒理解」3.24 (○) ・授業アンケート 「生徒意識」3.22 で前年度以上 (○) ・全体研修は学期に1回は実施できず。ただし教職員端末の入れ替えに伴う作業の説明会や、職員会議での情報提供、ICTを活用した授業研究会等、必要に応じて勉強会を実施。 (○) (2) ・教職員向け学校教育自己診断 「授業関連」の肯定率 87.5%で前年度から 9.5%向上 (◎) ・教職員向け「リーディング GIGA ハイスクールアンケート」の肯定率 72.2% (○) ・ストレスチェック職場の健康リスク3尺度の平均値 95 で 100 以下を維持 (○) ・教員の月平均残業時間を前年度以下にならず 24.4 時間 12 月現在 (△) 職場の健康リスクに関しては目標を達成し良好な結果を維持している。一方で、一部教職員について残業時間が多い状態は続いている。働き方改革や業務改善のさらなる取組が必要。

府立阪南高等学校

2 生徒が学校生活を充実させることができる学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」を身につけさせ、良き社会人の育成に取り組む (2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく (3) 安全で安心な学校づくりを行う	(1) ・遅刻者数を減らす ・ノークラブデーを確立し、教職員だけでなく生徒の負担も軽減しつつ、部活動への入部を奨励し生徒の自立心や社会性を育てる ・ウィズコロナのなかで可能な国際交流の機会を充実させていく (2) ・新たな教育課程を進めていくなかで、ブラッシュアップを図り、よりよい学習環境を作り上げていく ・外部指標教材や模擬試験、検定試験を活用し、学力の向上を図る ・進路希望を実現するために、一般入試まであきらめない意識を持たせる (3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する ・教育相談委員会を充実させ、SC や SSW とともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める ・人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する	(1) ・遅刻者数 2000 名以下を維持 [1526 名] ・部活動入部率を前年度以上 [59%] ・生徒向け学校教育自己診断「国際交流関連」の肯定率を前年度以上 [66%] (2) ・4 年制大学希望者の現役合格率 80%を維持 [89%] ・生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定率 80%を維持 [81%] (3) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率前年度以上 [60%] ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率 80%を維持 [80%]	(1) ・遅刻者数 1370 名 (○) ・部活動入部率 57.6%で前年度を下回る (△) ・生徒向け学校教育自己診断「国際交流関連」の肯定率 66.7%で前年度以上 ニュージーランド・韓国・台湾への語学研修を夏季休業中に実施 あわせてニュージーランド・台湾については本校への受け入れも行った (○) (2) ・4 年制大学希望者の現役合格率 88.7% (○) ・生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定率 88.8%で前年度から 7.8%向上 (◎) 既存の取組みが成功している。引き続き継続的な支援体制の強化が必要である。現在の高評価を維持しつつ、未だ満足していない約 11%の声を拾い上げていきたい。 (3) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率 64.9%で前年度以上 (○) 約 35%の生徒は教育相談に満足していない、または相談しにくいと感じている状況。生徒がさらに安心して相談できる体制を構築する余地がある。 ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率 88.6%で 8.6%向上 (◎)
3 保護者や外部機関と連携する学校	(1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける	(1) 【学校を外に開く】 ・生徒会活動や部活動等を通じて、地元の学校や自治体等と交流を図る ・中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し生徒の出身中学校との連携を強化する ・メールマガジンの発行においては、個人情報に留意しつつ、「お知らせ」以外にも学校の様子等がわかるものを発信していく ・ケーブル TV で放映される「テレビ高校説明会」の中心となり、多くの高校へ参加を呼びかけ、広報の有効な手段とする 【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組みを実施し、生徒会役員やクラブ員が中心となって運営していく ・「ご来校（お電話）いただきありがとうございます」の姿勢を維持する	(1) 【学校を外に開く】 ・地域の連合会だけでなく住吉区とも連携し、生徒や地域の安全安心に努めていく また、部活動等を通して中学校等との交流を継続していく それらの取組みを前年度以上 [3 回] ・教職員向け学校教育自己診断「広報関連」肯定率 80%維持 [97%] 【学校を内に開く】 ・体験入学や学校説明会参加者のアンケート肯定率 90%を維持 [95%] ・保護者向け学校教育自己診断「阪南高校に入学させてよかった」の肯定率 80%維持 [87%]	(1) 【学校を外に開く】 ・地域の人権教育研究協議会の学習会や連合会に参加 6 回 小学校との連携授業、小・中学校との研究授業への相互参加 6 回 ・地域活動協議会の広報誌の学校だよりの欄に地域の小学校・中学校とともに記事を掲載 ・生徒登校時、地域の朝の見守り活動と連携し生徒や地域の安全安心に努めている (◎) ・教職員向け学校教育自己診断「広報関連」肯定率 97.2% (◎) 【学校を内に開く】 ・体験入学や学校説明会参加者のアンケート肯定率 97.8% (◎) ・保護者向け学校教育自己診断「阪南高校に入学させてよかった」の肯定率 90.4% (◎)